

## 市民意向調査

### 1. 市民アンケート調査（第六次伊達市総合計画策定調査）

#### 調査実施時期

- ・調査票の発送：平成 19 年 9 月 26 日
- ・回答締め切り：平成 19 年 10 月 10 日

#### 調査対象（サンプリング）

- ・住民基本台帳にもとづき、18 歳以上の伊達市民のなかから、地区別、性別、年齢別の割合が母集団（伊達市民）の縮小サイズになるよう、2,000 名を層化無作為抽出した。

#### 調査方法

- ・郵送により調査票を発送し、返信用封筒による郵送で回答を回収した。

#### 調査内容

- ・市民生活やまちづくりに関する満足度評価として、次の 13 項目について調査した。  
健康・医療、 福祉、 安全・安心、 市民生活と農林水産業、 市民生活と商工業、  
雇用の確保や職場環境、 自然環境や景観、 家庭における環境保全の取組  
生活環境等の整備、 教育・生涯学習・文化・スポーツ、 余暇活動  
市民による地域活動や社会活動、 市政への参加や協働

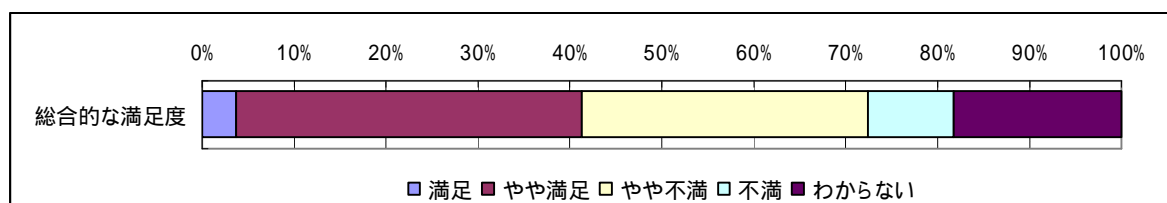
### 2. 市民アンケート調査結果

中心市街地のまちづくりに関連する項目の調査結果を下記に示す。

#### 市民生活やまちづくり全般について

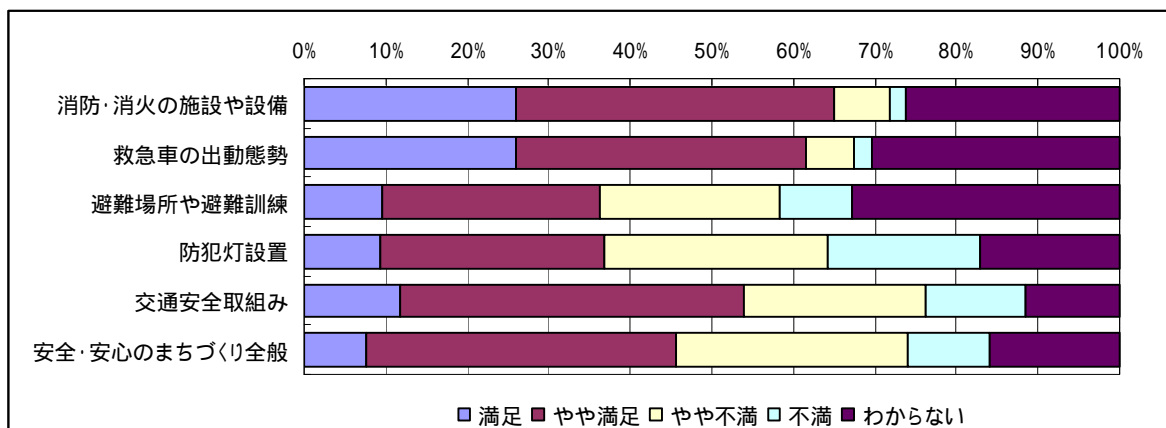
満足傾向の方が 0.7% だけ多い。市民生活やまちづくりに関する市民全体の評価は、良くも無く悪くも無く、といった中間的なあいまいな結果となった。

これまでお答えいただいた全部の項目を 総合的に判断しての満足度はどうですか	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない
	1	2	3	4	5



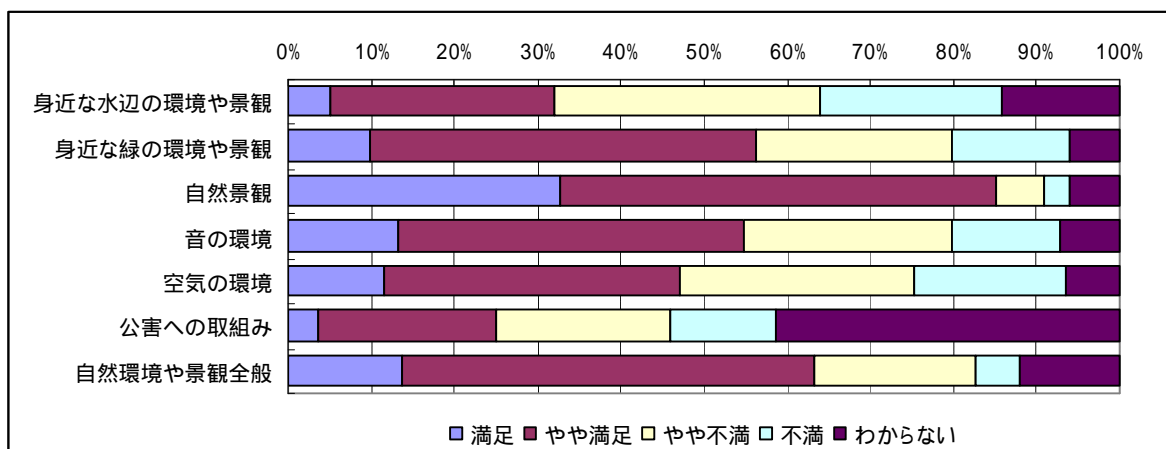
安全・安心について

満足傾向が不満傾向よりも多い項目は、「消防・消火の施設や設備」(差 56.2%)、「救急車の出動態勢」(差 53.3%)、及び「交通安全の取り組み」(差 19.4%) などであり、反対に不満傾向の方が満足傾向よりも多い項目は、「防犯灯設置」(差 - 9.3%) などである。消防関係の防災体制に対する市民の信頼感が大きく表れた結果と言える。全体としては満足傾向がやや多くなっている。



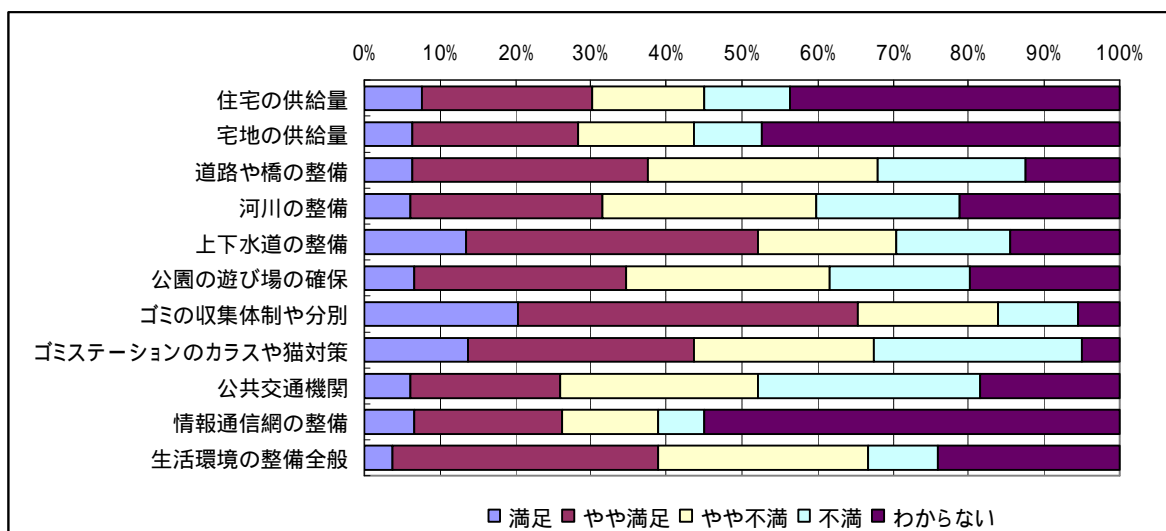
自然環境や景観について

満足傾向の方が多いのは、「自然景観」が圧倒的で 76.3%、「緑の環境や景観」18.3%、「音の環境」16.8% などであり、反対に不満傾向の方が多いのは、「水辺の環境や景観」 - 21.9% となっている。「公害への取り組み」については、「わからない」という回答も多いが、不満傾向の方が満足傾向よりもやや多く - 8.8% であり、水辺環境や公害防止対策に課題を残している。全体としては満足傾向が多く、38.3% である。



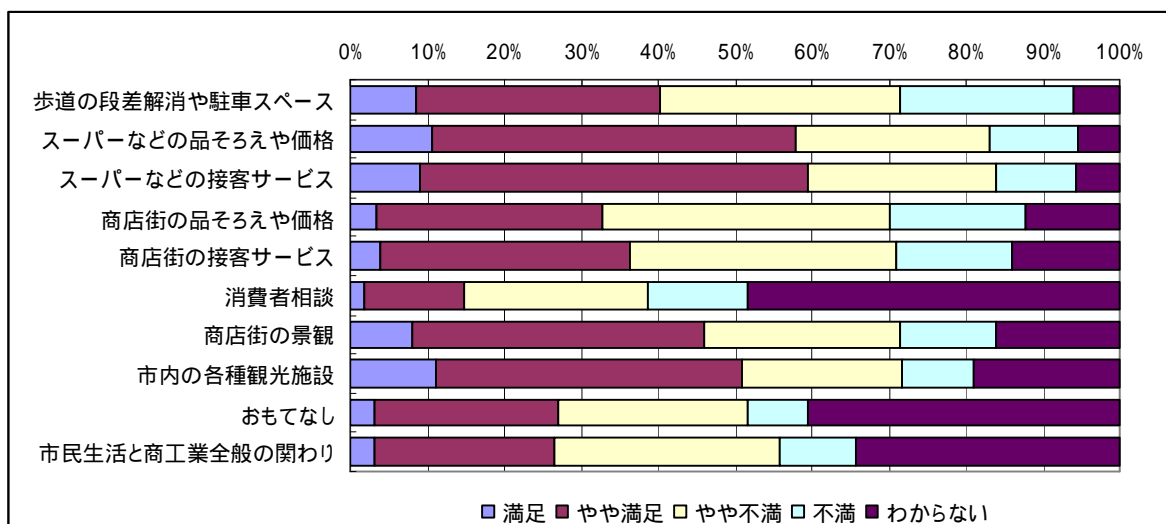
生活環境等の整備について

満足傾向の方が多い項目は、「ゴミの収集体制や分別」36.1%、「上下水道の整備」18.9%などで、反対に不満傾向の方が多い項目は、「公共交通機関」-29.7%、「河川の整備」-15.9%、「道路や橋の整備」-12.5%、「公園の遊び場の確保」-11.0%である。全体としては満足傾向がやや多くなっている。



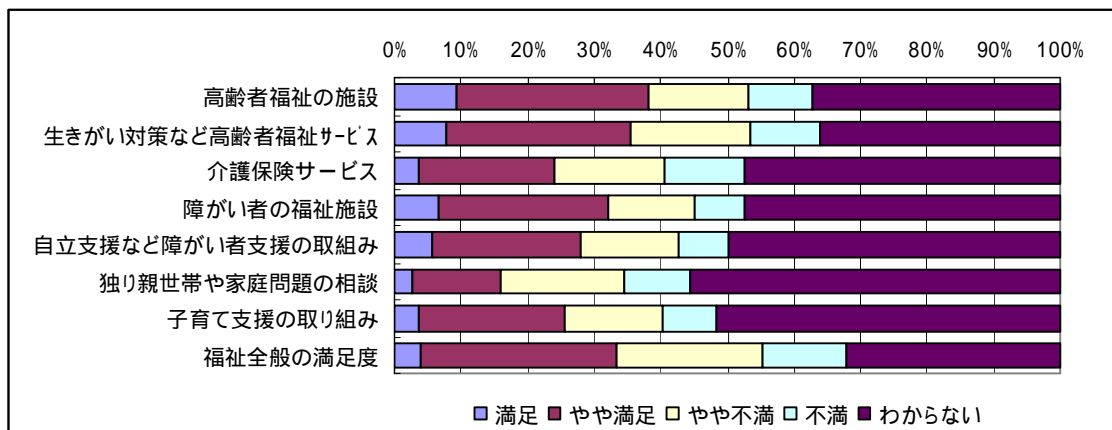
市民生活と商工業について

満足傾向の方が多い項目は、「スーパーなどの接客」24.6%増、「スーパーなどの品揃え」21.3%増、「各種観光施設」20.9%増など、反対に不満傾向の方が多い項目は、「商店街の品そろえや価格」-22.4%減、「消費者相談」-22.0%減%、「商店街の接客やサービス」-13.3%減、「歩道の段差解消や駐車スペース」-13.2%減などである。スーパーと商店街の評価が、明暗を分けている。全体としては不満傾向が多く、13.0%減となっている。



福祉について

全体として「わからない」と答えた人が多い。福祉の実態について身近に判断できるケースが少ないのか、多くの市民は評価できない状況にあることが伺える。満足傾向（「満足」+「やや満足」）が不満傾向（「不満」+「やや不満」）より多い項目は、「高齢者福祉の施設」（差 13.2%）、「障害者の福祉施設」（差 11.4%）、反対に不満傾向の方が高い項目は、「独り親世帯や家庭問題の相談」（差 - 12.6%）などとなっている。ハード面では満足傾向があるものの、ソフト面で課題が指摘された形である。全体としては不満傾向がやや多く、- 1.4%減となっている。

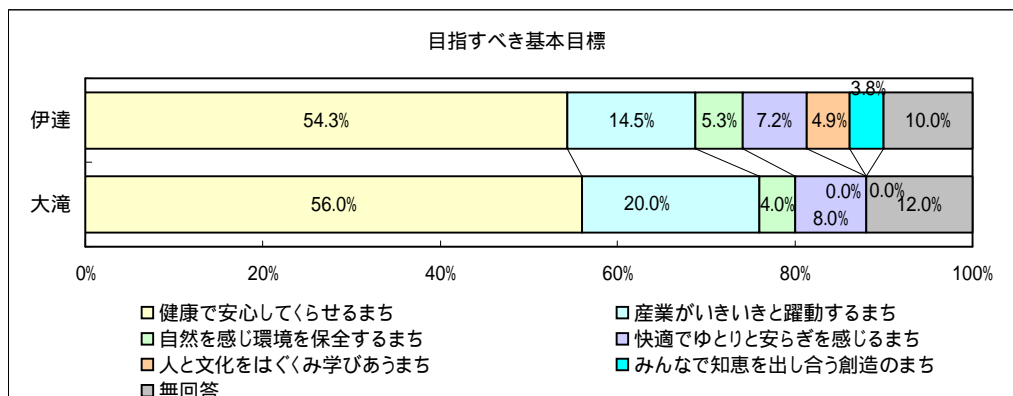


総合計画が目指すべき基本目標について

「健康で安心して暮らせるまち」を基本目標に掲げるべきと言う声が最も多い（54.0%）。次いで、「産業が生き生きと躍動するまち」14.5%となっている。

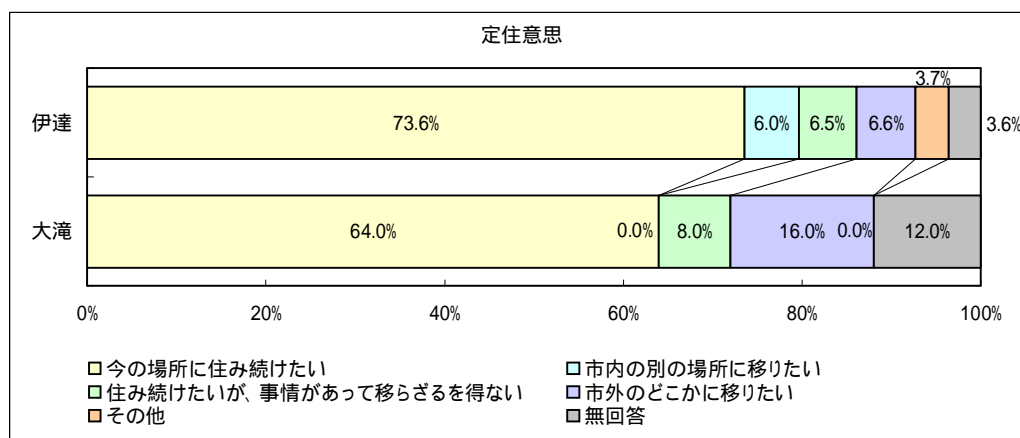
また、旧伊達市と旧大滝村の市民でどのような相違があるのか、地区別クロス分析を行った結果によると、大きな相違点となっているのは、「産業が生き生きと躍動するまち」への期待感が、旧大滝村の市民の方（20.0%）が、旧伊達市の市民（14.6%）より大きい。

これらのことから、現在の市民が最も望んでいるまちの姿は、「健康」、「安心」がキーワードのまちづくりであり、そのようなまちづくりの基盤となる「産業」が追加されるといった将来像となっている。



定住意思について

定住意思については、「今の場所に住み続けたい」が最も多く 72.6 %、反対に、「市外に移りたい」は 6.8 %となっている。旧伊達市と旧大滝村を比較すると、「今の場所に住み続けたい」が、旧大滝村住民は旧伊達市住民より 10 ポイント近く少なく、反対に「市外に移りたい」が、旧大滝村住民は旧伊達市住民より 10 ポイント近く多い。



自由意見について

自由記述回答の内容は多岐にわたっているが、主なテーマは次のように分類できる。

自由記述内容を総合計画づくりに直接反映するのは難しい。しかし、庁内担当者が関連する記述を点検して、その事実関係や背景、対応策などを調べるときの重要な情報となる。市民と市役所のコミュニケーションを個別具体で深めるときのきっかけとして、自由記述内容を十分に咀嚼する行動が、市民から求められているのである。

：医療、福祉、高齢者の暮らしなど

- (1) 医療不安 / 25 名
- (2) 生活不安 / 7 名
- (3) 高齢者福祉 / 9 名

：子育て支援、教育、雇用、若者定住など

- (1) 子育て支援 / 9 名
- (2) 学校教育 / 4 名
- (3) 雇用問題 / 30 名
- (4) 若者定住 / 6 名

：食、農業、漁業、商業など

- (1) 農漁業 / 3 名
- (2) 食 / 3 名
- (3) 商店街 / 4 名

: 環境、ゴミ問題、ペットなど

- (1) 身近な環境 / 20 名
- (2) ゴミ問題 / 6 名
- (3) ペット / 3 名

: 都市計画、土地利用、道路、住宅、下水道、交通、施設要望

- (1) 都市計画 / 13 名
- (2) 土地利用、除雪 / 6 名
- (3) 住宅 / 4 名
- (4) 下水道 / 6 名
- (5) 交通 / 15 名
- (6) 施設に関する要望 / 66 名

: コミュニティ、自治、行政、議会など

- (1) コミュニティ / 13 名
- (2) 自治活動 / 5 名
- (3) 市職員・市議会 / 7 名

: まちづくり、サミットなど

- (1) まちづくり / 18 名
- (2) 合併問題 / 3 名
- (3) サミット / 2 名
- (4) 情報 / 3 名
- (5) 移住 / 7 名
- (6) イベント / 6 名
- (7) 激励 / 2 名

: アンケート / 45 名

: その他 / 23 名